# チャレンジ問題　四月（卯月）

月　日　名前（　　）

## 一

次は、『たったひとりの伝説』という物語のはじめで、「おじいちゃん」に届いた外国語の手紙を見せられた「ぼく」について書かれた場面の一部です。［ア］・［イ］・［ウ］の中に入る人物を、本文中の言葉を使ってそれぞれ書きましょう。

「読まなくても、見るだけでいい」
おじいちゃんに言われ、ぼくは三枚の紙をひととおり見た。そして、
「やっぱり何が書いてあるか、わかんないよ」
と言って、すぐに紙をおじいちゃんに返した。
もしもそのとき、部屋に母さんがいたら、とんでもないことになっていただろう。
［ア］はこれくらいのことでも、顔をまっ青にして［イ］にあやまるか、さもなければまっ赤になって、こんなふうに言って［ウ］をしかる。
「なんですか、その態度は。おじいさまに、『やはり、わかりません』と言いなおしなさい！」
でも、母さんはそこにはいなかった。

［ア］

［イ］

［ウ］

（斉藤洋『たったひとりの伝説』による。）

## 二

森内さんの学級では、次の「つりずきの宇宙人」という物語を読んで、思ったことや考えたことを発表し合うことになりました。これを読んで、あとの問いに答えましょう。

かぞえきれないほどある、宇宙の星の中には、宇宙人のすんでいる星もたくさんあった。その中には、いろんな、かわった宇宙人もすんでいた。
その星の宇宙人たちは、とてもつりがすきだった。宇宙船にのって、あちこちの、生物のいる星に出かけていき、その星にすんでいるさかなを、みんなつりあげてしまう。
そのため、その宇宙人たちのすんでいる星の近所では、大きなさかなのいる星が、すくなくなってしまった。
「このごろ、あんまり大ものがかからない。」
と宇宙人の一人は、腕をたたいていった。
「おかげで、腕[※1]がなってしようがない。」
「この近所のつり場は、もうだめだ。」もう一人の宇宙人がいった。
「どうだ。ひとつ、うんと遠くまで出かけていって、大きなえものがいそうな星をさがそうじゃないか。」

（右下に続く）

「そいつはいい。」
こうして、二人の宇宙人は、宇宙船にのって、はるか遠くの宇宙に、さかなのいる星をさがしに出かけた。
キラキラ光る、あたたかい星のまわりをまわっている、小さな星の一つに、二人は、よさそうな場所を見つけた。
「ここなら、だいぶいそうだぞ。」宇宙船のまどから、そのきれいな星を見おろしながら宇宙人はいった。
「ひとつ、メガネでのぞいてみろ。」
メガネをのぞいた、もう一人の宇宙人は、うれしそうにさけんだ。
「いるいる！　――すごく大きなさかながたくさん、およいでいるぞ。」
「よし、それじゃ、ここにきめよう。」
そういって、二人の宇宙人は、つりざおをとりだした。
「エサは、なにがいいかな？」

（次のページに続く）

「わからん、ひとつ、ケバリ[※2]をつかってみよう。」
二人は、船の中から、長い長いつり糸を、大きなさかなたちのおよいでいるあたりまでたらした。
「なかなか、食いつかないな。」
「アッ、エサをのみこんだぞ！」
と一人がさけんだ。
「よし、ひっぱれ！」
「だめだ。針はひっかかっているけど、すごく重くて、なかなか上がらない。」
二人は、まっかになって、ウンウンいいながら、つり糸をひっぱった。
だが、さかなの力はすごく強く、いくらひっぱっても、上がってこなかった。——とうとうしまいに、つり糸がプッツリ切れ、二人は、宇宙船の中でドスンと、ころがった。
「ふう、おどろいた。すごい力のさかなだな。」
一人があせをふきながらいった。
「大ものにはちがいないが、ここのさかなは、ちょっと大きすぎる。」
ともう一人が、ふうふう息をつきながらいった。
「それに力もすごく強い。——ヘタをすると、こっちがひきずりこまれるかもしれんぞ。」
「ほんとだ、この星のつりは、ちょっとあぶないな。」
「みんなにも、知らせてやろう。——つりなら、もっとほかの星をさがそう。」
こうして、二人の宇宙人は、その星から、はなれていった。

その日の夕方——。
コイノボリをサオからおろしていた、ケンちゃんは、大きなマゴイのコイノボリの口に、みょうな形の針がひっかかっているのを見つけた。
「あれェ？」ケンちゃんは、その針を手にとって、おもわず空を見上げた。「だれか、コイノボリをつろうとしたやつがいるのかな？」
——夕やけの空の下に、まだあちらでも、こちらでも、コイノボリがいきおいよく、およいでいた。

（小松左京「つりずきの宇宙人」による。）

※1「腕がなる」……自分の力を見せたくて、はりきっている様子。
※2「ケバリ」……エサの虫などのすがたをまねてつくられた、つくりもののエサのついた針。

（右下に続く）

森内さんは、物語を「はじめ」・「中」・「終わり」に分けて、あらすじを表にまとめました。本文中の［　　］の部分を、**四十字以上、六十字以内**にまとめて、［**ア**］の中に書きましょう。

**【あらすじをまとめた表】**

| | |
|---|---|
| はじめ | つりがすきな宇宙人たちがいて、あちこちの星でさかなをみんなつりあげたために、近所では大きなさかなのいる星がすくなくなってしまった。 |
| 中 | **ア**<br>二人の宇宙人は、大きなさかながたくさんいそうな星を見つけ、そこでつりをしたが、さかなの力が強くて、つり糸が切れてしまった。<br>～（省略）～ |
| 終わり | ～（省略）～ |

※解答は、左側の原稿用紙のマスの中に書きましょう。

# チャレンジ問題　四月(卯月)

月　日　名前（　　）

## 一

次は、『たったひとりの伝説』という物語のはじめで、「おじいちゃん」に届いた外国語の手紙を見せられた「ぼく」について書かれた場面の一部です。［ア］・［イ］・［ウ］の中に入る人物を、本文中の言葉を使ってそれぞれ書きましょう。

「読まなくても、見るだけでいい」

おじいちゃんに言われ、ぼくは三枚の紙をひととおり見た。そして、

「やっぱり何が書いてあるか、わかんないよ」

と言って、すぐに紙をおじいちゃんに返した。

もしもそのとき、部屋に母さんがいたら、とんでもないことになっていただろう。

［ア］はこれくらいのことでも、顔をまっ青にしてなければまっ赤になって、こんなふうに言って［ウ］をしかる。

「なんですか、その態度は。おじいさまに、『やはり、わかりません』と言いなおしなさい！」

でも、母さんはそこにはいなかった。

［ア］母さん

［イ］おじいちゃん

［ウ］ぼく

（斉藤洋「たったひとりの伝説」による。）

出てくる人物は三人。ここから、「母さん」が「ぼく」をしかること、「おじいちゃん」に失礼だということがわかるね。

## 二

森内さんの学級では、次の「つりずきの宇宙人」という物語を読んで、思ったことや考えたことを発表し合うことになりました。これを読んで、あとの問いに答えましょう。

かぞえきれないほどある、宇宙の星の中には、宇宙人のすんでいる星もたくさんあった。その中には、いろんな、かわった宇宙人もすんでいた。

その星の宇宙人たちは、とてもつりがすきだった。宇宙船にのって、あちこちの、生物のいる星に出かけていき、その星にすんでいるさかなを、みんなつりあげてしまう。

そのため、その宇宙人たちのすんでいる星の近所では、大きなさかなのいる星が、すくなくなってしまった。

「このごろ、あんまり大ものがかからない。」

と宇宙人の一人は、腕をたたいていった。

「おかげで、腕※1がなってしようがない。」

「この近所のつり場は、もうだめだ。」もう一人の宇宙人がいった。

「どうだ。ひとつ、うんと遠くまで出かけていって、大きなえもののいそうな星をさがそうじゃないか。」

（右下に続く）

「そいつはいい。」

こうして、二人の宇宙人は、宇宙船にのって、はるか遠くの宇宙に、さかなのいる星をさがしに出かけた。

キラキラ光る、あたたかい星のまわりをまわっている、小さな星の一つに、二人は、よさそうな場所を見つけた。

「ここなら、だいぶいそうだぞ。」宇宙船のまどから、そのきれいな星を見おろしながら宇宙人はいった。

「ひとつ、メガネをのぞいてみろ。」

メガネをのぞいた、もう一人の宇宙人は、うれしそうにさけんだ。

「いるいる！　――すごく大きなさかながたくさん、およいでいるぞ。」

「よし、それじゃ、ここにきめよう。」

そういって、二人の宇宙人は、つりざおをとりだした。

「エサは、なにがいいかな？」

（次のページに続く）

「わからん、ひとつ、ケバリ[※2]をつかってみよう。」
二人は、船の中から、長い長いつり糸を、大きなさかなたちのおよいでいるあたりまでたらした。
「なかなか、食いつかないな。」
「アッ、エサをのみこんだぞー」
と一人がさけんだ。
「よし、ひっぱれ！」
「だめだ。針はひっかかっているけど、すごく重くて、なかなか上がらない。」
二人は、まっかになって、ウンウンいいながら、つり糸をひっぱった。
だが、さかなの力はすごく強く、いくらひっぱっても、上がってこなかった。——とうとうしまいに、つり糸がプッツリ切れ、二人は、宇宙船の中でドスンと、ころがった。
「ふう、おどろいた。すごい力のさかなだな。」
一人があせをふきながらいった。
「大ものにはちがいないが、ここのさかなは、ちょっと大きすぎる。」
ともう一人が、ふうふう息をつきながら

（右下に続く）

※1「腕がなる」……自分の力を見せたくて、はりきっている様子。
※2「ケバリ」……エサの虫などのすがたをまねてつくられた、つくりもののエサのついた針。

（小松左京「つりずきの宇宙人」による。）

いった。
「それに力もすごく強い。——ヘタをすると、こっちがひきずりこまれるかもしれんぞ。」
「ほんとだ、この星のつりは、ちょっとあぶないな。」
「みんなにも、知らせてやろう。——つりなら、もっとほかの星をさがそう。」
こうして、二人の宇宙人は、その星から、はなれていった。

その日の夕方——。
コイノボリをサオからおろしていた、ケンちゃんは、大きなマゴイのコイノボリの口に、みょうな形の針がひっかかっているのを見つけた。
「あれェ？」ケンちゃんは、その針を手にとって、おもわず空を見上げた。「だれか、コイノボリをつろうとしたやつがいるのかな？」
——夕やけの空の下に、まだあちらでも、こちらでも、コイノボリがいきおいよく、およいでいた。

「宇宙人がさかなのいる星をさがしに出かけた」ことについて、40字以上60字以内でまとめよう。

森内さんは、物語を「はじめ」・「中」・「終わり」に分けて、あらすじを表にまとめました。本文中の［　　］の部分を、**四十字以上、六十字以内**にまとめて、［**ア**］の中に書きましょう。

**【あらすじをまとめた表】**

| | |
|---|---|
| はじめ | つりがすきな宇宙人たちがいて、あちこちの星でさかなをみんなつりあげたために、近所では大きなさかなのいる星がすくなくなってしまった。 |
| 中 | ア<br>二人の宇宙人は、大きなさかながたくさんいそうな星を見つけ、そこでつりをしたが、さかなの力が強くて、つり糸が切れてしまった。<br>～（省略）～ |
| 終わり | ～（省略）～ |

※解答は、左側の原稿用紙のマスの中に書きましょう。

〔参考〕過去の調査における正答率

| 問題番号 | 調査の名称（実施学年） | 正答率(%) |
|---|---|---|
| 一 | 平成２２年度　全国学力・学習状況調査（６年） | 65.3 |
| 二 | | 73.3 |

〔参考〕出題の趣旨

| | |
|---|---|
| 一 | 文学的な文章に登場する人物を相互に関係付けて読むことができるかどうかをみる。 |
| 二 | 登場人物の行動や場面の移り変わりに注意しながら，あらすじを書くことができるかどうかをみる。 |

〔参考〕解答類型と反応率

| 問題番号 | | 解答類型 | 反応率(%) | 自校の反応率(%) | 正答 |
|---|---|---|---|---|---|
| 一 | 1 | **ア**に「母さん」，**イ**に「おじいちゃん」，**ウ**に「ぼく」と解答しているもの | 53.5 | | ◎ |
| | 2 | **ア**に「母さん」，**イ**に「おじいちゃん」，**ウ**に「ぼく」と同じ意味で，本文中の言葉を使って解答しているもの | 11.8 | | ○ |
| | 9 | 上記以外の解答 | 33.0 | | |
| | 0 | 無解答 | 1.7 | | |
| 二 | | （正答の条件）<br>次の条件を満たして解答している。<br>①「（宇宙人が）さかな（のいる星）をさがしに出かけた」ことについて触れている。<br>② 40 字以上，60 字以内で書いている。 | | | |
| | 1 | 条件①，②のいずれも満たしているもの | 61.2 | | ◎ |
| | 2 | 条件①，②のいずれも満たしているが，[　]部の最後の三行を抜き出すことで解答しているもの | 12.1 | | ◎ |
| | 3 | 条件①は満たしているが，条件②は満たしていないもの | 2.2 | | |
| | 4 | 条件①に関して，「（宇宙人が）さかな（のいる星）をさがしに出かけた」ことについて触れているが，「宇宙人がコイノボリをつろうとしたこと」，「ケンちゃんに関すること」など，[　]部の範囲外のあらすじを書いているもの<br>＊「宇宙人がつりずきであること」，「近所では大きなさかなのいる星がすくなくなったこと」など，「はじめ」の部分に該当するような事柄については，内容の重複ととらえ，範囲外のあらすじであるとは判断しない。<br>＊条件②を満たしているかどうかは不問とする。 | 3.1 | | |
| | 9 | 上記以外の解答 | 16.3 | | |
| | 0 | 無解答 | 5.2 | | |